

# とよなか

(部内資料)

教え子を再び戦場に送るな！ 2017年10月4日発行NO. 588

子ども達の豊か  
な成長の力を  
ために皆で力を  
合わせましょう！

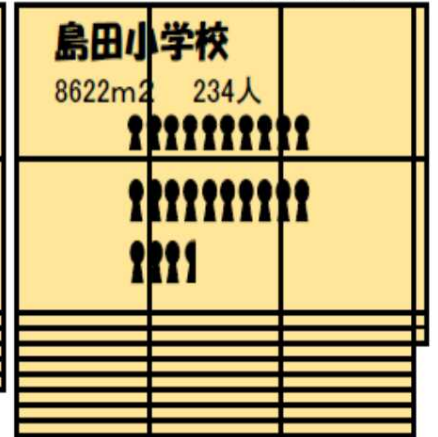
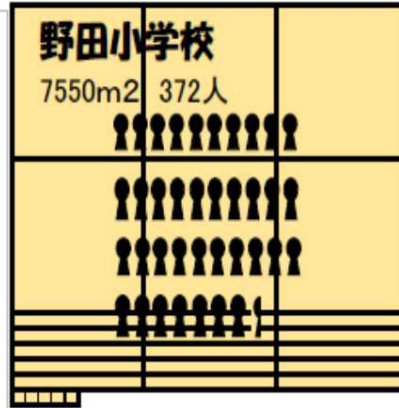
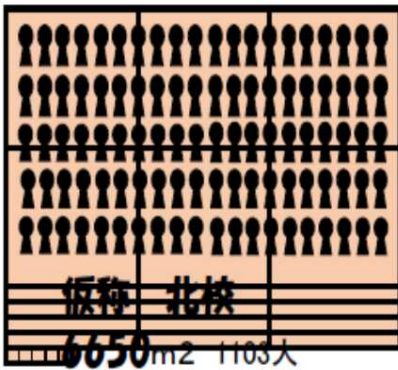
## 豊中市は庄内地域学校統廃合「計画」を見直しせよ！

人数は増えるのに、運動場は設置基準の1/2！

野田小・島田小の運動場より狭い！

住民はこの事実を知らない？！

ビックリ！



運動場設置基準 によれば 約12000m <sup>2</sup> 必要		
6中の敷地面積 11650m <sup>2</sup>		

2016年2月「魅力ある学校」づくり構想	8800m <sup>2</sup>
2016年11月「魅力ある学校」づくり構想の検討状況 新設例 ※開示請求した資料によれば、 グラウンド6910m <sup>2</sup> +芝生広場 1300m <sup>2</sup>	8210m <sup>2</sup>
2017年2月14.18日 市民協働部 南部地域 連携センター 南部コラボ 6中敷地北側5000m <sup>2</sup> と明記！	11650m <sup>2</sup> -5000m <sup>2</sup> =6650m <sup>2</sup>

豊中市が推し進めようとしている学校統廃合は、大規模義務教育学校「計画」。

昨年2月にはじめて学校統廃合の構想が示されました。そこには北校の校舎配置例として、校庭面積8800m<sup>2</sup>が示されていました。

ところが、その後、豊中市は具体的な資料を示さず、庄内地域学校統廃合を考える会のメンバー

が開示請求した資料からは、「8200m<sup>2</sup>」となっていることがわかりました。

さらに今年2月の6中北側に建設予定の南部コラボに関する資料によれば、北校（仮称）は6650m<sup>2</sup>しか運動場がないこととなります。

### ●知っておきたい「特別休暇」F

台風シーズンです。特別休暇の一つに「風水害・震災その他非常災害時において、出勤途上における身体の危険を回避するため勤務しないことがやむを得ないと認められる場合」というものがあります。

勤務終了時刻に台風の影響が強まるなど警報等が出ている場合などが考えられます。学校長の承認。





# 被爆者の悲願！ 「核兵器禁止条約」採択・署名

## 加盟国の2/3が採択賛成 世界の市民社会の圧倒的な声

核兵器を法的に禁止する核兵器禁止条約の署名が9月20日、国連本部で始まり、初日だけで50カ国が署名。

グテレス国連事務総長は、被爆者の活動を「英雄的」と称賛し、「条約は核兵器のない世界という普遍的な目標に向けた重要な一歩。この目標を達成するための地球規模の取り組みが活発になることを期待する」と語りました。

### 日本からも被爆者・被爆地の市長も参加 日本政府は条約に反対！

日本からは、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）代表委員ら被爆者代表、長崎市長が参加し、各国の代表、市民社会代表と署名を喜び合いました。

同条約に一貫して反対



カナダ在住被爆者のサー口節子さん（7/7）

している日本政府は署名式も欠席しました。

核兵器禁止条約は7月7日に国連加盟国（193カ国）の約3分の2にあたる122カ国の賛成で採択されました。

条約は、被爆者と核実験被害者の苦痛と損害に留意した上で、核兵器の開発、実験、生産、製造取得、保有、貯蔵、使用、使用の威嚇などを禁止する内容です。

### 「ヒバクシャ国際署名」 515万を国連に提出

「ヒバクシャ」の声、そして日本で毎年行われている原水爆禁止の世界大会のとりくみが世界を大きく動かしてきたといえます。

いま、世界中に核兵器廃絶を訴える「ヒバクシャ国際署名」が取り組まれていきます。2020年までに世界で数億筆を目標に取り組まれるものです。日本でも18府県知事、約900の自治体首長が賛同しています。515万筆を超えて集まり、10月のアメリカでの国連総会第1委員会に提出されます。



### 原水爆禁止世界大会 長崎に参加して

参加した組合員さんからの感想

初めて原水爆禁止世界大会に参加しました。印象に残ったのは、国連での核兵器禁止条約の採択は新たなスタートだと、どの方も話されていたことです。

日本を含め条約に参加していない国に呼びかける運動の始まりであること言われていました。分科会では、水野さんという被爆者の方のお話を聞きました。4歳の時広島で被爆されたご自身の体験と、60年間語れずにいた男性の話をされました。その方は長崎で9歳の時被爆し数日後、次々に亡くなる妹、弟を焼いて骨にするように、動けなくなっていたお母さんから言われたそうです。死後硬直で、火をつけると体が動くので、生きていたのではと悩み、誰にも相談できなかつた。妹さんとの最後の会話は本当に大切に話したくなかつた、と。9歳の子どもにこのような思いをさせる非人道的なものを許してはいけなと言われました。

また、被爆体験を語る中で、日本の教育は想像力を豊かにするようゆったりとしたものではないのではと感じるといふ厳

しい言葉もありました。非人道的なものを想像する力、怒りを持つて欲しいと強く仰いました。水野さんに若者や海外からの参加者の質問もありました。

「広島で会った被爆2世のタクシートの運転手さんは親から体験を聞いたことがない、と。被爆体験を語るのはなぜか？」という質問に「私は被爆したことを悪いとは思っていないし顔の傷について聞かれてもこたえてきませんでした。近現代史を学んだから、私は絶対に悪くないと揺らがない気持ちを持って」「原爆のことだけでなく、近現代史を学んで欲しい」

また体験者が亡くなっていく現実にも焦っている発言には「被爆者は焦っていない。参加はまだまだだが2世3世の方も語れる。皆さんが聞いてくださることも力になっている」という言葉があり、質問者は「被爆体験の生々しい言葉は持てないけれど、想像力を持っていけば伝えることができると思つた」と話されていました。

「あらゆる人があらゆる場所で、自分の正義を貫くことではないのか。何度も言うが、被爆者だけでは平和で公正な世界を実現できない」という水野さんの言葉が心に残りました。